
泣かないで

星 明莉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

泣かないで

【Nコード】

N0293E

【作者名】

星 明莉

【あらすじ】

「真さんに会える！」と喜ぶ園子を見て、新一への思いが募る蘭。自分を心配するコナンにその思いをぶつけてしまう。そんな蘭に、コナンが“コナン”のまま“新一”として蘭に伝えた言葉とは……？心温まる（といいな）短きラブ・ストーリーをお楽しみ下さい（・V・）

蘭の自宅にて、園子は声を張り上げた。

「真さん、来週帰ってくるんだって！」

「そうなんだ！よかったじゃない、園子」

蘭は園子に紅茶を出しながら嬉しそうに言う。

「こっちに来たら、一番に私に会ってくれるって！だから空港まで迎えに行くんだ！もちろん内緒で♪」

園子は両手を顔の前で組んで、宙を輝かしく見つめる。

「真さんにはその日有事があるって嘘をつくのよ。有事があるはずなのに来た私に真さんはこう言うのよ！『園子さん？有事とやらはどうしたんですか？』ってね！」

そして園子は視線を蘭に換えて力強く言った。

「私は『有事なんかよりもあなたが大事です』って言うのよ！どう？この【嘘も方便大作戦】！！」

蘭は苦笑しながら言う。

「い…いいんじゃない？」

そして蘭は嬉しそうに真の自慢話をする園子を見て思った。

（あいつは…いつ帰ってくるんだろう？）



「どうしたの？ 蘭姉ちゃん…」

蘭はコナンの声にハツとした。

「あ…何でもないよ、何？」

「それならいいんだけど…なんか元気ないよ？」

「そう？」

蘭はにこつと笑って大丈夫よ、と言った。

そしてやりかけていた夕飯の支度を続ける。

「…」

しかし、蘭は再びその手を止めた。

コナンはまた心配そうに問い掛ける。

「蘭姉ちゃん…？」

「園子は来週ね、京極さんと会えるんだって！」

蘭は明るく振舞って言うが、コナンは深刻な顔付きでいた。

「本当に嬉しそうだった…園子…」

蘭からも段々と笑顔が消える。

そして自宅を飛び出し、階段を駆け下りて外に出た。

「蘭！」

コナンは急いで蘭の後を追った。



外は強く雨が降っていた。

（夕方には…小降りになるって言ってたのにな…）

蘭は黒雲で覆われた空を見上げる。

「蘭姉ちゃん」

コナンが息を切らして呼んだ。

蘭はコナンの方を見ずに言う。

「私だって会いたいのに…あんな奴でも…すぐ会いたいの…！」
(やだ…私、こんな子供になに言ってるの…?)

コナンは静かに蘭に歩み寄って言った。

「蘭姉ちゃん…風邪ひいちゃうよ？中に戻ろう…」

蘭は俯く。

「…だめ…よ…」

コナンは更に蘭に近づいた。

「でも…」

蘭はコナンの方を向く。

そして涙と雨でずぶ濡れになった顔で言った。

「新一のために流した涙なんて…悔しくて見せられないもの…」

コナンは目を丸くした。

(…蘭…)

二人を、ただ冷たい雨が叩きつける。

しばらくして、コナンは呟くほどの声で言った。

「…違うよ…蘭…」

「え？」

コナンは蘭の手をぎゅっと握る。

そして今度は力強い声でこう言った。

「ボクのこと、新一兄ちゃんだと思って…聞いて？」

蘭は眉をひそめてコナンを見つめた。

「…もったいねーんだよ…オレなんかのために…」

コナンは握り締めた手に一層力を入れる。

「…オレを思っただくくらいなら笑って…バカみてーな笑い声、聞かせろよ…」

蘭がきよとんとしているのでコナンは顔を真っ赤にして怒鳴った。

「泣くなっただよ!!!」

「新一…」

次の瞬間、蘭の長い髪が大きく揺れた。

しゃがんでコナンの小さな体を、力いっぱいきつく抱きしめていた。

抱きしめる時にふと見えたコナンの驚いた顔も、

水溜りに膝を着いてしまっていることも、

蘭にとっては何も気にならないでいた。

「コナン君がいるもんね…?」

雨の中の沈黙を先に破ったのは蘭だった。

「えっ…」

コナンは横目で自分を抱きしめる蘭の背中を見る。

「…だって…新一みたいに暖かいもの…」

「蘭…」

コナンはすっと自分の腕も蘭の襟元に絡ませた。

「新一兄ちゃん、帰ってくるから…」

「うん…」

「絶対…絶対帰ってくるから…」

「うん…」

「…だから笑って? 蘭姉ちゃん…」

蘭は顔をあげる。

「…それまでコナン君、そばにいてくれる…?」

蘭は涙を浮かべながらも、微笑んだ口元で言った。

コナンはにこっと笑い返す。

「もちろんだよ」

蘭は片手で涙を拭ってすっと立った。

「…よし! 戻ろっか。ごめんね、お腹空いたでしょ?」

「あ、うん」



二人はいつもよりゆっくりとポアロの横の階段を上っていた。

「帰ったら着替えないとね！」

「うん！」

その時、蘭がふと思い出したように言った。

「…そういえばそっくりだったよ？ さっきのコナン君、新一に」

「えっ！」

コナンは蘭が自分の正体を疑っているのかと思い、冷や汗を流した。

「だから…新一もコナン君みたいに思ってくれてるのかなって、バカなこと考えちゃった」

「蘭…」

「ホラ、急がないと風邪ひいちゃうから！」

「え？ うわっ」

蘭はコナンの手を掴んで階段を小走りで駆け上がる。

その蘭の後姿を見つめながらコナンは思った。

（バーロ…さっきのは全部本音だよ…）

・ END ・

(後書き)

(あとがき・ω・)ノ

蘭ちゃんとコナン、抱き合わせちゃったV
いっつも蘭ちゃんの一方的な気がするから、コナンにも頑張ってもら
きました。

原作であつたら萌死ぬ!!! (黙ろっか

タイトルは羞恥心の2ndシングルから(へωへ*)

泣かないでのCDに封入されていたカード…羞恥心の3人以外にラ
クダとアンガールズが写っているのがすごく気に入らなかった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0293e/>

泣かないで

2010年10月11日17時52分発行